

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

名古屋工業大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	5
《本文》	6
《判定結果一覧表》	18

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

《本学の歴史と環境、社会の変化》

名古屋工業大学は、20世紀初頭の名古屋高等工業学校創立以来、屈指の工科系単科大学として発展し、中京地域を中心に産業基盤を築き上げ、科学・技術立国の側面から我が国の繁栄に貢献してきた。

しかし、21世紀に入り我が国を取り巻く状況の大きな変化を踏まえ、国立大学はその使命を改めて認識した上で、それぞれの機能強化に速やかに取組むことが求められた。

また、本学の位置する中京地域の産業界は、新興国の発展に伴う世界市場の拡大により、イノベーションな開発・製造を行い世界展開しようとしており、国際競争力の維持向上が不可欠となっている。

《第Ⅱ期までの取組、実績》

このような我が国の国立大学を取り巻く環境や経済、社会の変化に対応しつつ、当地域とともに培ってきた産業技術と産業人材の揺籃機能を一層強化し、当地域産業界を支点としたイノベーション・レバレッジによって我が国の強い産業、特に、世界に冠たる「ものづくり産業」を支え、次代の発展を導くため、本学は、果たすべき役割・使命を踏まえて、「中京地域の産業界との融合」を基本方針として、地域産業界の求める人材養成に向けた教育組織改革を中心とする機能強化に取組むこととした。

具体的には、人材養成において、平成28年度から、学部の学科、大学院の専攻の再編成を行うとともに、学部及び大学院博士前期課程を通じた6年一貫による「創造工学教育課程」を設置する諸準備を完了した。これに必要なフロンティア研究院による研究ユニット招致のための国際連携強化、産業界からの教員採用を推進するとともに、年俸制、混合給与制度の導入も完了し、適用教員の拡大に努めているところである。さらに、創造工学教育推進センターにおいては、産業界からの要請の恒常的な把握・反映、新教育課程のPDC Aサイクルの確立に向け、検討を行っているところである。また、研究面においては、URAオフィスの活動強化により、研究力強化のための戦略的・組織的な取組を充実しているところである。

《第Ⅲ期の基本方針》

このような第Ⅱ期中期目標期間における取組を着実に実施・定着させるとともに、「中京地域産業界との融合」を基本方針とした機能強化を更に充実するため、特に、以下の事項に重点的に取組む。

1. 平成28年度から実施する学部の学科、大学院の専攻の再編成及び学部・大学院博士前期課程を通じた6年一貫による「創造工学教育課程」に関し、計画的な教育課程の整備等、円滑かつ着実な実現に取組む。
2. 外国人、女性、若手等の多様な教員、留学生、社会人、女性等の多様な学生を充実し、ダイバーシティ環境の構築に取組む。
3. 研究力強化戦略の下、世界トップレベルの先端的研究を組織的・横断的並びに国際的に推進する。
4. 社会・産業界が求めるイノベーション創出に繋がる実践的研究を一層推進する。
5. 社会の変化に速やかに対応するため、学長のリーダーシップの下、業務全般の改善及び効率化等を推進する。

1. 沿革と理念

本学の前身である名古屋高等専門学校は、中京地域にあって日本の産業中心地を興し育てる目的のもとに、常に社会と産業界の要請に応え、優れた学術・技術の創出と有為な人材の育成に尽力してきた。新制大学として発足する際も、産業界等と密接な連携・融合一体化して、活きた研究、活きた教育を行うことを本学の特色として位置づけ出発した。

このような歴史的・地理的背景も踏まえ、本学は「世界の平和と人類の幸福を究極の目標としつつ、常に新たな産業と文化の揺籃として、革新的な学術・技術を創出するとともに、有為な人材を育成し、社会を啓蒙すること」を基本的使命としている。

今日、中京地域産業界はもとより、社会や産業、文化の発展に係る課題は地球規模で多様化、複雑化し、単独の大学や単一の分野のみで解決しきれない状況が顕著となっている。本学は、世界と繋がる「中京地域の産業界との融合」を基本方針に掲げ、国内外の大学・機関との連携を推進し、課題解決のための新たな価値の創造に向けた学術・技術の研究と中京地域産業界が求める工学人材の育成に取り組んでいる。

2. 教育

地域産業界の求める人材や本学の教育に関して意見を聞くため 2014 年度に設置した「産学官教育連携会議」において、今後の産業界を支えていく人材像について、『中京地域を含む我が国産業界にイノベーションを牽引する技術者を輩出するとともに、産業界と一体となった教育体制』を求められた。その上で、各産業技術分野の深い知識を有し、その中核的技術者として産業を担うと同時に先端技術の開発によってイノベーションを牽引する技術深化型人材と、俯瞰的・多面的工学知識と新たな価値を作り出す能力を有する価値創造型人材の育成を求められた。

この提言を踏まえ、理工系人材育成戦略を策定し、2016 年 4 月、工学部及び工学研究科を現行体制に再編し、新たに 3 ポリシーを定めて教育を実施している。

このうち、価値創造型人材については、工学系人材として独創的であり、学部段階と大学院博士前期段階を併せた 6 年一貫教育で育成する。そのため、2016 年度の再編においては、工学研究科では技術深化型人材を充実させる改組を行い、2020 年度、価値創造型人材教育の学年進行に対応した創造工学プログラム（100 名）を 5・6 年次に配置する再々編を計画した。この再々編では 2018 年に文部科学省が公表した工学系教育の在り方等に関する提言も踏まえ、工学研究科全体の分野横断的教育を行うため学位プログラム制をとるものとした。

技術深化型人材においても、電気電子と機械工学を統合する電気・機械工学科/専攻を他大学に先駆けて設置する等、地域の需要と本学の強みを考慮した編成とした。

また、大学院では 2016 年度以来、数理情報教育や産業界と連携した教育、実践教育等の充実を図ってきている。グローバル化に対応できる人材を育てるため、海外を実践のフィールドにした教育を積極的に取り入れている。2016 年度改組した博士後期課程は 2 つの人材像を統合したイノベーション教育を実施してきているが、2020 年度の博士前期課程の改組の考え方も踏まえて、産業界が求める博士を輩出するため、分野融合教育とイノベーション・リーダー教育を効果的に実施するよう再々編を計画している。

3. 研究

世界に冠たる産業集積地であり国際競争力の向上を必要とする中京地域にあって、本学がその揺籃機能を強化し期待される「イノベーションハブ」の役割を果たすため、産業や学術のグローバル化に対応した先端研究と、産業界との連携の下にイノベーション創出につながる実践的研究を推進している。

その中核的な推進組織として、フロンティア研究院及び産学官金連携機構を置き、効果的効率的な仕組みの導入や取組の実施、資金の重点措置を通じて成果を上げている。

フロンティア研究院は、本学の強み・特色である材料科学及び情報科学分野で海外研究者の招聘や国際共同研究の実施のほか、外国人教員による講義を担っており、卓越した研究成果・人材を継続的に生み出す機能を、また、産学官金連携機構は本学と産業界との連携・協創の要となる組織で、事業創造・人材育成、設備共用、企業等の涉外窓口・企画立案の機能を有し、それぞれ各中期計画に示すような実績を上げている。

4. 社会連携・貢献

本学では、社会との連携・貢献に係る企画から実施まで産学官金連携機構が中心的役割を担う体制をとっている。工学系大学の特徴を生かし、社会的重要課題であるイノベーション創出に資する社会人技術者等のスキルアップや学外機関・企業との共同研究・開発から社会実装までをトータルで支援している。

特に、科学技術や社会・産業の動向を見据え、技術開発が急務な分野については、業務を特化したセンターに組織化し成果の社会還元に努めている。

5. 国際交流

本学の強み・特色である個々の教員の高い研究機能を活かし、海外の大学等の研究者との国際的な共同研究をベースとした国際交流を実施している。第3期においては、海外の大学との間の共同研究を組織的・多面的に国際展開し、博士後期課程に国際連携大学院や共同大学院プログラムを設置するなど、共同研究の成果を学生のグローバル化や研究遂行能力の育成につなげている。

留学生受け入れや日本人学生の海外派遣の促進のため、国際交流プログラムの拡充、国際学生寮の整備、学生の海外活動の単位化、教員による連携機関の開拓、「国際化推進事業」による経済的支援などに努めている。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- 本学の基本方針である「中京地域産業界との融合」を踏まえ、産業界が求める二種類の人材像、すなわち「技術深化型人材」と「価値創造型人材」を育成するために、2016年4月から工学部及び工学研究科を現行体制に再編し、新たに3ポリシーを定めて教育を実施した。研究面においては、産学官金連携機構を中心に地域産業界との連携を深め、実践的な研究(共同研究)を毎年300件以上実施し、地域のイノベーション創出に貢献した。工科系大学としての特徴を活かした社会貢献として、地域企業の社会人を対象としたものづくり中核人材の育成支援に取り組んだ。

(関連する中期計画：1-1-1-1、1-1-1-2、1-1-1-3、2-2-2-1、
3-1-1-1、3-1-1-2)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

- 「名工大版理工系人材育成戦略」に基づき、企業等の学外機関在籍者による実践的な教育や研究インターンシップ等による海外機関での専門分野研修等に積極的に取り組むほか、海外からの研究ユニット招致を通じて国際共同研究の大幅な増加を目指すとともに、招致ユニットの外国人教員による英語による専門教育を新たに実施する。また、これらの取組みを継続的に実施するために、若手教員の計画的な雇用を推進する。加えて、産業界が求めるドクター人材について引き続き検討し、博士後期課程の再編に取り組む。

(関連する中期計画：1-1-1-3、1-2-1-1、1-4-1-1、2-2-1-1、
2-2-1-4、4-1-1-1)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、名古屋工業大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を上げている	【4】 優れた実績を上げている	【3】 進捗している	【2】 十分に進捗しているとはいえない	【1】 進捗していない
I 教育に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 順調に進んでいる			1		
2 教育の実施体制等に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある		1			
3 学生への支援に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある		1			
4 入学者選抜の改善に関する目標	【3】 順調に進んでいる			1		
II 研究に関する目標	【5】 特筆すべき進捗状況にある					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある		1			
2 研究実施体制等に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある		1	1		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある					
	なし		1			
IV その他の目標	【3】 順調に進んでいる					
1 グローバル化に関する目標	【3】 順調に進んでいる			2		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、2項目が「計画以上の進捗状況にある」、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
学部・大学院の再編成及び学部・大学院博士前期課程を通じた6年一貫教育により、地域の産業界が求める高度かつグローバルな技術者等の専門職業人を育成するとともに、研究開発能力を有する先導的な人材を育成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(優れた点)		
	○ 創造工学教育課程の開設 価値創造型人材を育成する学部及び大学院博士前期課程を接続した創造工学教育課程を開設し、6年一貫の学修を前提に、幅広い工学分野のセンスをもった技術者を育成している。創造工学教育課程では、学生自身が学習目標を立ててカリキュラムとキャリアを設計する「Cプラン」の導入、複数分野の科目履修、価値創造の手法を学ぶ「工学デザイン科目」、アクティブラーニングなどの実践的な授業など、これまでの工学系にはない教育体系と指導を取り入れている。		

	<p>(中期計画 1-1-1-1) (特色ある点)</p> <p>○ 学部・大学院の再編</p> <p>「中京地域産業界との融合」の基本方針のもと、地域産業界の意見を聴く「産学官教育連携会議」の提言を受け、平成28年度、「技術深化型人材」と「価値創造型人材」の育成に向け、学部・大学院において5学科・5専攻への再編と、創造工学教育課程の新設を行っている。(中期計画 1-1-1-1)</p>
--	---

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
高度かつグローバルな技術者等の専門職業人の育成と研究能力を有する先導的人材の育成のため、学内外から戦略的に人材を配置し、実施体制を整備する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「外部人材を活用した専門職業人の育成」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 外部人材を活用した専門職業人の育成</p> <p>学部の共通科目である産業・経営リテラシー科目と創造工学教育課程の専門科目工学デザイン科目、及び大学院の専門科目において、学外機関在籍者が参画して実践に即した教育を行う授業の実施率は20%以上(95/443科目)となっている。中期計画で指定した第3期中期目標期間末時点における</p>		

	<p>数値目標（20%以上）を、3年目経過時点で上回っており、学外からの人材による専門職業人の育成体制が構築されてきている。（中期計画 1-2-1-1）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 外国人教員の招聘</p> <p>フロンティア研究院に招致した海外研究者を外国人教員として迎える制度を整え、博士後期課程の研究に助言を与えるとともに、先進的研究者による授業を直接に英語で学ばせるため、博士前期課程では「材料・エネルギー特別演習 1、2」、「情報・社会特別演習 1、2」を、博士後期課程では「材料・エネルギー先進特別演習 1、2」、「情報・社会先進特別演習 1、2」の計 8 科目を毎年開講している。実施にあたっては、延べ 94 名の外国人教員を招聘し、平成 28 年度から令和元年度末までに 124 回の演習を実施している。（中期計画 1-2-1-1）</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育</p> <p>コロナ禍における様々な取組や工夫、特に、教育企画院の下にオンデマンド教育導入検討部会（その後オンデマンド教育推進部会に名称変更）を設置し、直ちに教材作成のためのマニュアルを作成・配布するとともに、情報基盤センターとの技術面で連携しながら、順次、授業形態に合わせた動画マニュアル 10 本を moodle 上に公開している。また、これにより、教員の大多数が円滑に教材を作成し、充実した遠隔授業を開始することができている。さらに、オンライン教育に関する教員と学生の意見交換会（オンライン）を実施し、その結果を令和 3 年度の授業方針に反映させていくことなどの取組が迅速に行われている。</p>
--	--

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
<p>学内の各支援組織が連携し、修学支援、生活支援の充実を図る。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「学生への就職支援の充実」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 学生への就職支援の充実</p> <p>キャリアサポートオフィスと学生生活課が中心となり、就職・キャリア形成の充実のため、独自の内容で、企業研究セミナーや就職ガイダンス、インターンシップ、キャリアカウンセリング等を実施している。これらの取組は、学生だけではなく企業からの関心も高くなっている。各学科等の就職担当教員や、学生の進路指導に直接関わる指導教員とも連携して、就職・キャリア支援に取り組むことが、就職率の高さだけではなく、求人と求職のマッチングを重視した質の高い就職実績となっている。その結果、「就職支援に熱心に取り組んでいる大学」(日経 HR 価値ある大学 就職力ランキング)として、平成 29 年から令和 2 年まで 4 年間連続して 3 位内に入り、また「有名企業 400 社への就職率が高い大学ランキング」(東洋経済 本当に強い大学)では、平成 30 年第 5 位、令和元年第 4 位という評価になっている。(中期計画 1-3-1-1)</p>			

	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 学生への経済的支援</p> <p>授業料免除基準を満たしながら予算事情から対象外となった博士後期課程学生の支援のため、大学の自己財源で「名古屋工業大学博士後期課程修学支援事業」を実施し、平成29年度から令和元年度までに、24名に対し総額3,214千円を給付している。また、寄附を受けた株式の配当金を原資に支給する給付型奨学金制度である「名古屋工業大学ホシザキ奨学金」を設立し、学力が優秀であり、経済的に困窮している学生40名に対し、平成28年度から令和元年度までに総額95,040千円の支援を行っている。(中期計画1-3-1-2)</p>
--	---

(4) 入学者選抜の改善に関する目標 (中項目 1-4)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜の改善に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-4-1	判定	判断理由
能力・適性等を評価する多様な入学者選抜方法を導入し、アドミッション・ポリシーに基づく人材を受け入れる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 女子学生増加に向けた入試制度</p> <p>女子研究者・技術者への社会的要請に応え、女子学生の割合を増やす取組を進めている。特に、電気・機械工学科では、女子に限定した推薦入試を実施している。令和元年度の工学部における女子学生の割合は18.2%で、全国の工学部在学者に占める女子学生の割合(15.4%)を上回っている。(中期計画1-4-1-1)</p>	
	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>	

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「計画以上の進捗状況にある」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
ものづくり産業の世界拠点である中京地域の「工学のイノベーションハブ」として世界最高水準の研究を目指す。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「イノベーション創出に向けた研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ イノベーション創出に向けた研究の推進</p> <p>名古屋工業大学の専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学を支援する内閣府事業「令和元年度国立大学イノベーション創出環境強化事業」に採択されている。</p> <p>また、外部資金収入は、第2期中期目標期間初年度の平成</p>		

	22年度1,209百万円に対し、第3期中期目標期間3年目の平成30年度1,747百万円と1.44倍となっており、中でも共同研究は442百万円から775百万円へ伸び率が1.75倍となっている。(中期計画2-1-1-1)
--	--

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある</p> <p>(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 2-2-1	判定	判断理由
世界最高水準を目指した研究活動を支える高度かつダイバーシティのある研究組織・研究実施システムを整備する。	【4】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「フロンティア研究院の活動の充実」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ フロンティア研究院の活動の充実 強みを一層強化するため、強み・特色 (化学・材料科学分野、情報科学分野) を集約したフロンティア研究院にインペリアル・カレッジ・ロンドン (英国) やカリフォルニア大学 (米国) 等、海外の有力大学・機関から年度計画6件の2倍から4倍、外国人研究者を中期計画の10名以上の2倍から3倍の招致を達成している。招致した研究者との国際共同研究94件を推進したほか、フロンティア研究院構成員の国際共著論文は157報に上がっている。(中期計画2-2-1-1)</p>	

	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 外部資金獲得の推進 新たな学際的研究領域を創出する融合的・総合的研究を推進するため、学内研究推進経費を活用し、学長のトップダウンによる組織的・横断的プロジェクト研究（2件/年）や次期プロジェクト研究に繋ぐ戦略的研究（5件/年）等を実施し、外部資金獲得を図っている。（中期計画 2-2-1-2）</p> <p>○ 女性研究者の積極的採用 女性限定公募の実施や、研究支援員制度や女性研究者メンター制度による研究活動継続のためのサポート体制の整備を行うとともに、女性研究者を積極的に採用している。その結果、第2期中期目標期間最終年度（平成27年度）の女性研究者比率10.4%に対して、平成28年度の初年度比率10.7%から始まり、現時点において12.2%で、第3期中期目標期間終了時比率11%を達成している。（中期計画 2-2-1-3）</p>		
<p>小項目 2-2-2</p>	<p>判定</p>		<p>判断理由</p>
<p>学外機関と連携して大型研究設備の共同利用を推進し、研究水準の更なる向上を促進するとともに本学のイノベーションハブ機能強化を図る。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>該当なし</p>		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
ものづくり産業の世界拠点である中京地域の「工学のイノベーションハブ」として持続的な地域の発展と産業振興に最大限貢献する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「実践的研究の増加」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(特色ある点)		
	○ 地域との多様な連携 中京地域の中小企業シーズのブラッシュアップと人材育成を連動させた学び合いプロジェクト、異業種間ネットワークづくりへの支援を強く意識した経営中核人材育成プログラム、女性技術者の育成支援のものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾等を毎年度実施している。さらに、愛知県と連携して平成29年度より県内の中小製造業を対象に産業用ロボット導入支援講座を、名古屋市と連携して平成30年度よりロボット・IoT・サイバーセキュリティ専門人材育成講座(全3講座)を開講し、ものづくり関連の教育プログラムを拡充させている。(中期計画3-1-1-1)		
	○ 研究成果の社会実装の推進 物質・材料研究機構のナノ材料科学環境拠点、GaN(窒化		

	<p>ガリウム) 研究コンソーシアム、窒化物半導体マルチビジネス創生センター等組織的・連携的研究を行い、社会実装への橋渡しを推進している。参画企業等とプロジェクトの企画・立案を行い、公的資金4件の獲得にも繋がっている。(中期計画3-1-1-2)</p> <p>○ 実践的研究の増加</p> <p>「産学官交流プラザ」等を活用し、企業との交流を深めることにより、新たな研究テーマが創出され、実践的研究(共同研究)は第2期中期目標期間終了時点(平成27年度)の271件を毎年度上回る件数となり、ここ3年間は目標件数200件の1.5倍以上の件数となっている。(中期計画3-1-1-2)</p>
--	---

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
海外の有力大学・研究機関と連携して世界レベルの先端的研究を推進し、本学の国際的プレゼンスを高める。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ （特色ある点） ○ 国際共同研究プロジェクトの実施 フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルク（ドイツ）の研究者12名と名古屋工業大学の材料科学分野、情報科学分野、電気・機械分野の研究者11名とで国際共同研究12プロジェクトを実施している。その結果、同取組が日本学術振興会が実施する日独共同大学院プログラム「エネルギー変換システム：材料からデバイスまで」に採択されている。これにより、学生を10か月以内の期間にわたり相手国の大学院に派遣して日独双方の大学で研究指導を行っている。若手研究者等についても相手国への相互派遣を行い、国際的な共同研究を組織的に実施している。（中期計画 4-1-1-1） ○ 国際共同研究の成果公表 名古屋工業大学主導による国際共同研究の成果を、第3期		

	<p>中期目標期間内に世界レベルの国際共著論文（名古屋工業大学教員が責任著者）400 報として世界に公表することとしている。</p> <p>第3期中期目標期間の4年目で累計306報（1年当たり76報）と、過去6年間（平成22年度から平成27年度まで）を超えており、目標に向けて進捗している。（中期計画4-1-1-1）</p>		
小項目 4-1-2	判定		判断理由
<p>海外の大学との教育連携を図りながら留学生の受入れ、日本人学生の派遣を促進し、国際的に通用する人材を育成する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>（特色ある点）</p> <p>○ 国際的な教育プログラムの運営</p> <p>名古屋工業大学が加盟する大学コンソーシアムとモンゴル科学技術大学との連携により実施しているモンゴル・ツイニングプログラム、アフリカ諸国にて産業開発を担う優秀な若手人材を受け入れ、国際協力機構（JICA）が実施するインターンシップ実習を含め大学院博士前期課程での教育を英語で実施する ABE イニシアティブ、大洋州諸国の行政官を中心に、大学院博士前期課程の教育を英語で実施する太平洋島嶼国リーダー教育支援プログラム（Pacific-LEADS）及びその後継プログラムとして SDGs グローバルリーダーコースの4件の新規プログラムを運営している。（中期計画4-1-2-1）</p>		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある 3.87 うち現況分析結果加算点 0.37
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00
小項目1-1-1 学部・大学院の再編成及び学部・大学院博士前期課程を通じた6年一貫教育により、地域の産業界が求める高度かつグローバルな技術者等の専門職業人を育成するとともに、研究開発能力を有する先導的な人材を育成する。	【3】	進捗している 2.29
中期計画1-1-1-1(★) 【創造工学教育課程(学部・大学院博士前期課程)】 全国の国立大学に先駆けて設置(平成26年6月)した産学官教育連携会議においてとりまとめた中京地域産業界が求める新たな人材像、即ち「専門分野を中心に幅広い工学の高度な知識と価値創造の能力を持ち、新たな価値を創出する技術者」を育成する。これを実現するため、企業在籍者による工学デザイン教育、招致外国人教員による「特別演習」等の英語による専門科目授業、研究室ローテーションや複数分野科目履修義務化等を実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-2(★) 【学士課程教育】 中京地域産業界の要望を踏まえ、再編された5つの学科において「工学分野の基礎知識と技術創出の基礎を持つ中核技術者」を育成する。例えば、全国初の電気、機械のシステムインテグレーション教育を実施するなど、産業人材を育成する実践的教育を充実する。 加えて、産業界としての責任感を養成するため、工学の意義及び工学技術者の産業界での役割をディスカッション等のアクティブラーニングによって教育する。 また、「産業論」等に女性の企業在籍者を招聘して女子学生向けのキャリア教育を強化する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-3(★)(◆) 【大学院博士前期課程】 中京地域産業界の要望を踏まえ、再編された5つの専攻において「工学分野の専門知識を持ち、新たな技術を創出する高度専門技術者」を育成する。 専門的課題・解決等に関する国内外の研究者・技術者とのコミュニケーション能力を強化するため、新設した「研究インターンシップ」では、平成32年度以降、年間50名以上の学生を海外機関で専門分野研修させる取組を実施する他、英語による授業のみで修了に必要な単位を充足できるコースを全ての専攻に導入し、平成32年度から実施するなど、グローバルな工学修士育成における先導的役割を果たす。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-4 【大学院博士後期課程】 再編された6つの専攻において「幅広い分野で深い専門知識と優れた研究能力を持ち、学術研究や新たな産業分野の創出を牽引するイノベーション・リーダー」を育成する。このため、企業のプロジェクトリーダーを教員として招いた「イノベーションリーダーセミナー」の実施や「研究者倫理」の必修化によって活きた研究者倫理教育を徹底し、高い倫理観を備えたイノベーション・リーダーを育成する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-5 【単位の実質化、教育成果の把握と学位水準の確保への対応】 各学生に対するきめ細かな修学指導を効果的に実施するため、履修課程・修学成果を可視化する。具体的には、学士課程・博士前期課程・博士後期課程の授業科目に対するナンバリングの導入とカリキュラムフローにより、独自の科目選択・履修計画を策定させる。 また、成績は、要素別GPAやルーブリックを含む学習ポートフォリオで可視化し、その達成度評価に基づき個別修学指導を行う。 加えて、クラス担当委員及び指導教員や学生ボランティアによる個別学習支援を軸に、学習相談室、附属図書館、情報基盤センター、学生センター等との連携やICT学習環境を活用し、多面的な学習支援を実施する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-6 教員の教育力及び教育システムの改善・強化のため、FD委員会の下に各学科・専攻及び授業要素ごとのワーキング・グループを設置し、全教員が所属するFDシステムを構築する。 FD委員会は、優秀な取組事例の収集など教育力の向上に資する情報の共有化や研修を実施するとともに、授業評価・成績評価の分析結果に基づいて全学的視点で問題点等を洗い出し、教育内容・教育方法の改善を行うなど、PDCAサイクルを構築する。 また、創造工学教育推進センターの評価部門を中心に、教育効果の評価方法の構築、教材の開発等、定常的な教育改善を行う。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-7 創造工学教育推進センターを中心に、創造工学教育課程の学生の入学から卒業までの追跡調査・分析を実施する。 特に、センターの評価部門では、調査・分析結果と産学官教育連携会議の提言を踏まえ、同教育課程に関する評価項目・評価システムを策定し、第3期中期目標期間中に外部評価委員による中間評価を実施する。	【2】	中期計画を実施している

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目1-2	教育の実施体制等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目1-2-1	高度かつグローバルな技術者等の専門職業人の育成と研究能力を有する先導的人材の育成のため、学内外から戦略的に人材を配置し、実施体制を整備する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00
中期計画1-2-1-1(◆)	グローバルな専門職業人の育成のため、全ての海外招致ユニットにおいて、分野ごとにそれぞれ年4科目(延べ8科目)の専門科目を外国人教員が英語で実施するとともに、教員に対する英語教授法の「特別講義」を実施する。また、学部の「産業・経営リテラシー」科目、「工学デザイン」科目及び大学院博士前期課程の専門科目の20%以上で企業を中心とする学外機関在籍者による実践的な教育を実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目1-3	学生への支援に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目1-3-1	学内の各支援組織が連携し、修学支援、生活支援の充実を図る。	【4】	優れた実績を上げている	2.50
中期計画1-3-1-1	学生の就職を円滑に推進するため、キャリア支援に必要な企業情報、学生の応募・内定状況、関連セミナーの開催・受講状況等の情報を一元管理するキャリア・ポートフォリオを構築する。 就職担当教員は、このポートフォリオを活用し、指導教員及びキャリアサポートオフィス、学生センターと連携して、個別キャリア支援を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-2	学生生活において支援を必要とする学生に対し、保健センター、学生なんでも相談室、クラス担当委員、指導教員、学生センター等が、学生が必要とする支援内容に応じて対応者等を調整して問題の解決を図るとともに、宿舍の整備や学内に掲示される案内の英語表示、個々の障害者への問題解決に繋がる対応を行うなど、快適な学生生活環境等の整備を行う。 また、ホームカミングデー等を通じて卒業生からの寄附金等外部資金の拡充に努め、経済的に困窮している学生に対する支援等を充実させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目1-4	入学者選抜の改善に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1	能力・適性等を評価する多様な入学者選抜方法を導入し、アドミッション・ポリシーに基づく人材を受け入れる。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-4-1-1(◆)	多様な入学者を受け入れるため、AO入試、推薦入試、一般入試からなる本学の入学者選抜において、アドミッション・ポリシーに応じて、能力・適性等を多面的・総合的に評価する選抜方法を実施する。 特に、創造工学教育課程の選抜においては、面接や小論文を重視し、工学への関心の高さや意欲等を評価して受け入れる。 また、入学後の学生の成績等の動向と面接評価との関連の分析を行い、判定手法の改善に反映する。	【2】	中期計画を実施している	
大項目2	研究に関する目標	【5】	特筆すべき進捗状況にある	4.50 うち現況分析結果加算点 0.75
中項目2-1	研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目2-1-1	ものづくり産業の世界拠点である中京地域の「工学のイノベーションハブ」として世界最高水準の研究を目指す。	【4】	優れた実績を上げている	3.00
中期計画2-1-1-1	地球規模的課題や産業構造・地域社会の変化を見据えた先進的課題等を解決する新たな知を開拓するため、世界レベルの独創的な学術研究を各研究者独自の視点と豊かな発想に基づいて実施する。これらの研究成果は学術論文等として広く世界に公表するとともに、個々の研究を対象に、URAオフィスを中心に適切な指標に基づき研究レベルを分析・評価する。 加えて、これらの結果を全学的に集約し、本学の研究の強み・特色及びその動向を客観的に把握する。 指標としては例えば、Incites(トムソン・ロイター社)論文数、相対インパクトの世界平均との比較、国際共著論文数、科研費や受託研究、共同研究等の獲得件数、社会貢献(特許活用、社会実装、作品等)、著名な賞の受賞、社会の反響(マスコミ報道等)を適用する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

名古屋工業大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目2-2	研究実施体制等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	3.50
小項目2-2-1	世界最高水準を目指した研究活動を支える高度かつダイバーシティのある研究組織・研究実施システムを整備する。	【4】	優れた実績を上げている	2.75
中期計画2-2-1-1(◆)	本学の強みを一層強化するため、強み・特色(化学・材料科学分野、情報科学分野)を集約したフロンティア研究院に、インペリアル・カレッジ・ロンドン(英)やマサチューセッツ工科大学(米)等、海外の有力大学等から毎年6件の研究ユニットを招致する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-2-1-2	新たな学際的研究領域を創出する融合的・総合的研究を推進するため、学長のトップダウンによる組織的・横断的プロジェクト研究(2件/年)や次期プロジェクト研究に繋ぐ戦略的研究(5件/年)等を実施する。 さらに、URAによる研究力動向調査・分析結果に基づいて、研究力の向上が期待できる分野を特定し、当該分野への貢献度が高い研究者に対して強化支援経費を重点配分する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-2-1-3	ダイバーシティのある研究環境を整備するため、女性教員を積極的に採用し、ライフイベントにおいても研究活動が継続できるよう支援を行うなどの取組により、第3期中期目標期間終了時において女性研究者の比率を11%とする。 また、第3期中期目標期間内に企業在籍者・経験者を5名以上新規雇用することに加え、研究ユニット招致等を活用して優秀な外国人研究者を毎年10名以上招致する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-2-1-4(◆)	本学の研究力を維持・向上する基盤として、テニュアトラック制度を全学的に適用して優秀な若手教員を採用し、第3期中期目標期間終了時において、第2期中期目標期間終了時点での40歳未満の若手教員比率15%を超える17%を目指して雇用を促進する。 若手研究イノベータ養成センターでは、採用したテニュアトラック教員に対し、各自の研究計画等の実施状況に基づき、研究力・指導力等の向上・改善の観点で年度評価を実施する。また、採用後5年以内に外部有識者を含む審査委員会にて任期解除審査を実施する。 加えて、研究力強化やグローバル化支援として、若手研究者在外研究員制度等により毎年5名を本人が求める海外研究機関に派遣する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-2-2	学外機関と連携して大型研究設備の共同利用を推進し、研究水準の更なる向上を促進するとともに本学のイノベーションハブ機能強化を図る。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-2-1(★)	国内外の多様な分野の研究者との研究情報交流及び地域産業界の活性化を促進するため、本学が得意とする分子・材料を合成・分析・解析する大型研究設備、特殊設備等と学外機関の高度な大型研究設備等を共有してプラットフォーム化(全国11機関)し、国内外の研究者・地域企業に対するワンストップ研究・開発支援システムを構築する。これを軸に、年間130件以上の設備共同利用(受託試験)を実施する。 また、技術系職員のスキルアップを図るため、名古屋大学等、近隣大学と連携したプラットフォームでは、日常の設備共同利用を通じた技術交流活動に加え、最新の計測技術等に関する講習会(年4回)及び講演会(年1回)を実施する。	【2】	中期計画を実施している	
大項目3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目3-1-1	ものづくり産業の世界拠点である中京地域の「工学のイノベーションハブ」として持続的な地域の発展と産業振興に最大限貢献する。	【4】	優れた実績を上げている	2.67
中期計画3-1-1-1(★)	企業内教育リソースの乏しい中小企業におけるものづくり中核人材の育成支援として、社会人を対象としたものづくり関連の教育を一層充実させる。 具体的には、中小企業の現場に学生が向かい若手社員とともに課題解決に取り組み、企業シーズのブラッシュアップと人材育成を連動させた「学び合いプロジェクト」の実施、工場長養成塾における異業種間ネットワークづくりへの支援を強く意識したエグゼクティブプログラムの併用と女性技術者の育成支援、3D-CAD教育プログラムにおける環境の整備(自習のための24時間利用可能なCAD室の運営と教材ビデオの作成)等を実施する。 また、一般社会人向けの公開講座では本学OB人材を講師として積極的に招聘するなど同窓会組織である名古屋工業会との連携により一層の充実を図る。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	<p>中期計画3-1-1-2(★)</p> <p>国家プロジェクトや自治体が推進する研究支援事業等を地域における知の拠点として先導し、事業内容に即した研究センター等を軸に、社会実装への橋渡しをミッションとして組織的・連携的に研究を推進する。 加えて、国や地域の産業界が要望するイノベーション創出に貢献するため、新設した「産学官交流プラザ」等での企業面談において活きた課題を洗い出し、これに応える実践的研究(共同研究)を毎年200件以上実施することにより大学発の新技術の創成を促進する。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>中期計画3-1-1-3</p> <p>国や地域の活性化に貢献するため、地方自治体や民間団体等の各種委員会委員や評価委員等として社会が直面する各種課題解決に取り組むとともに、全国・地域に教員が出向き、防災、高齢者対策や最新技術動向等について教育・啓蒙活動に努める。</p>	[2]	中期計画を実施している	
大項目4	その他の目標	[3]	順調に進んでいる	3.00
	<p>中項目4-1</p> <p>グローバル化に関する目標</p>	[3]	順調に進んでいる	3.00
	<p>小項目4-1-1</p> <p>海外の有力大学・研究機関と連携して世界レベルの先端的研究を推進し、本学の国際的プレゼンスを高める。</p>	[3]	進捗している	2.00
	<p>中期計画4-1-1-1(◆)</p> <p>研究のグローバル化を推進するため、フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルク(独)等からの要請を踏まえ、欧州の大学・研究機関を対象に、材料科学分野に限定していた学生・研究者交流や共同研究等を情報科学分野や電気・機械工学分野等、広域連携へ拡大する。 また、マサチューセッツ工科大学等、米国の有力大学との研究連携に加え、優秀な研究者の育成が進む東南アジア諸国も重視し、南洋工科大学(シンガポール)やマレーシア工科大学等と研究面での連携を強化する。 これら本学主導による国際共同研究の成果を、第3期中期目標期間内に、世界レベルの国際共著論文(本学教員が責任著者)400報として世界に公表する。これに対応するため、毎年度実施する教員評価の研究軸の設問に「国際共著論文数(本人責任著者分)」の項目を新たに追加する。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>小項目4-1-2</p> <p>海外の大学との教育連携を図りながら留学生の受け入れ、日本人学生の派遣を促進し、国際的に通用する人材を育成する。</p>	[3]	進捗している	2.00
	<p>中期計画4-1-2-1</p> <p>多様な国際教育連携を推進するため、既の実施中の海外大学との技術者育成プログラム及び教育プログラムを推進し、モンゴルツイニングプログラムの導入など第3期中期目標期間中に海外大学との新たな共同プログラムを3件開拓する。 加えて、第3期中期目標期間の冒頭にアフリカからの留学生受け入れ体制を整備し、受け入れを開始する。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画4-1-2-2(*)</p> <p>学生間の国際交流の基盤として、大学に隣接した狭間地区に新たに国際学生寮(仮称)(200名規模)を整備する。 また、全教員の海外ネットワークを集約・データベース化して、質の高い留学生の受け入れルートを確立し、地域企業の要望を踏まえ、インド、ASEAN諸国から留学生100名以上を受け入れる。 一方、日本人学生についても、教員海外ネットワークの活用や協定校を通じ、「研究インターンシップ」学生を含め、平成32年度以降、毎年100名以上を海外派遣する。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画4-1-2-3</p> <p>国際的質保証のため、フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルク(独)及びウーロンゴン大学(豪)等とのジョイントディグリー制度導入を見据えたコースワークを導入する。</p>	[2]	中期計画を実施している	

名古屋工業大学

- ※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。